

第5号様式（第7条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	第2回 清須市子ども・子育て審議会
開 催 日 時	平成25年8月29日（木）午前10時から午前11時
開 催 場 所	清須市役所本庁舎3階 大会議室
議 題	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>（1）子ども・子育て支援事業計画の作成に向けたニーズ調査について</p> <p>（2）清須市の子育て支援に関するアンケート調査票について</p> <p>4 閉会</p>
会 議 資 料	<p>会議次第</p> <p>資料1 子ども・子育て支援法に基づく基本指針の概要</p> <p>資料2 清須市子ども・子育て支援事業計画の策定の考え方について</p> <p>資料3 「市町村子ども・子育て支援事業計画」の作成に向けたニーズ調査について</p> <p>資料4 子育て支援に関するアンケート調査（就学前児童保護者用）</p> <p>資料5 子育て支援に関するアンケート調査（小学生保護者用）</p>
公開・非公開の別 （非公開の場合はその理由）	公開
傍 聴 人 の 数 （公開した場合）	3人
出 席 委 員	小川委員、村瀬委員、日下部委員、赤尾委員、塚本委員、中川委員、藤田委員、安藤委員、建部委員、谷委員、原田委員、中田委員、福田委員、富田委員、小原委員
欠 席 委 員	花井委員、堀田委員、荒井委員、星野委員
出 席 者（市）	加藤市長、大鐘健康福祉部長、浅田学校教育課長
事 務 局	〔子育て支援課〕林課長、杉村主幹、伊藤副主幹、浅井係長
会議録署名委員	日下部委員、塚本委員

## 1 開会

### ●事務局

皆様おはようございます。定刻となりましたので、ただ今から「清須市子ども・子育て審議会」を開始します。本日は、お忙しいところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。私は、子育て支援課の林と申します。よろしくお願ひいたします。最初に、事務局から出欠状況について、ご報告させていただきます。本日は、花井委員、堀田委員、荒井委員、星野委員の4名の方が所用のためご欠席でございます。会議及び会議録につきましては、清須市附属機関等の会議の公開に関する要綱において、個人情報など非公開という扱いをしているものを除き、原則公開することになっています。従いまして、本会議及び会議録は公開とさせていただきますので、よろしくお願ひします。なお、本日は、傍聴者の方がお見えになっております。傍聴者の方には、入場していただいておりますので、よろしくお願ひいたします。 それでは、開会にあたり加藤市長よりご挨拶を申し上げます。

## 2 あいさつ

### ●加藤市長

おはようございます。少し、朝晩涼しさを感じるようになりました。お忙しい中、審議会にご出席いただきありがとうございます。皆様には子育ての支援をはじめ、いろいろな協力いただいております。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。清須市も2度の合併をしました。先般7月7日の七夕の日に8年目を迎えました。これまで、皆様を始め、市民の皆さんと力をあわせて、災害に強いまちづくり、子育て支援、市民の安心と安全を確保しながら、また、市が目指してきました「まちが元気、子どもが元気、いつもいつまでも元気」となるように、一つひとつ進めさせていただきました。これも、皆様のご支援、お力添えがあるからだと思ひます。今後も、皆様と連携をとりながら、そして絆を大切にしたまちづくりを大切に、多くの歴史的資産など魅力ある清須市を活かしながら、より一層のまちづくりに取り組んでいきます。本日は、第2回の子ども・子育て審議会になります。平成27年度からの本市の子ども・子育て支援事業計画の基礎資料となる大切なアンケート調査について、ご審議していただくこととなっています。今が、子育て真最中の保護者の皆さま、そして、子育てをサポートしている方々、あるいは各種団体の代表者、また、学識経験者などの様々な方にお集まりを頂いております。委員には活発なご意見をいただき、子ども・子育て支援事業計画策定の大切な基礎資料となるアンケート調査票を取りまとめでいただきたいと思います。子ども・子育て審議会の前身の次世代育成支援対策行動計画策定委員会では、春日地区では夢の森保育園を廃止し、ネギヤ保育園と中之切保育園の2園で保育を進めていくこととなり

ました。また、西枇杷島地区では、保育園が1園のため、他の地区の保育園に通園している状況となっているため、新たに西枇杷島温水プールの跡地に保育園を新設して、保育ニーズに応えるところでございます。さらに保育園の統廃合、放課後子ども教室の拡充に取り組んでいかなければならないと考えています。今日は皆様には率直なご意見をいただき、有意義な審議会にさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

●事務局

それでは、議事に移らせていただきます。会議の議事進行につきましては規定により会長が務めることとなっております。小川会長よろしくお願いいたします。

3 議事

○小川会長

それでは、規定に基づき議事の進行を務めさせていただきます。始めに本日の会議の会議録署名委員を2名お願いしたいと思います。署名委員には、日下部委員、塚本委員をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。それでは、議事に入ります。最初に、(1) 子ども・子育て支援事業計画の作成に向けたニーズ調査について、事務局から説明をお願いします。

●事務局 (資料1、資料2、資料3に基づいて説明)

- ・資料1 子ども・子育て支援法に基づく基本指針の概要
- ・資料2 清須市子ども・子育て支援事業計画の策定の考え方について
- ・資料3 「市町村子ども・子育て支援事業計画」の策定に向けたニーズ調査について

○小川会長

ありがとうございます。第1回の審議会でも出ましたが、再度の説明と国の方針に従ってということです。基本的なことを踏まえて、清須市の地域実情にあったアンケート調査について、確認、審議していきます。(2) 清須市の子育て支援に関するアンケート調査票についての説明を受けたあと、委員の皆様からご意見をいただきます。

●事務局 (資料4、資料5に基づいて説明)

- ・資料4 子育て支援に関するアンケート調査 (就学前児童保護者用)
- ・資料5 子育て支援に関するアンケート調査 (小学生保護者用)

○小川会長

ありがとうございます。非常に膨大なものとなっております。まずは、議題1

は基本的なものですので、もし、質問があれば先にお願ひします。今回は議題2を中心に進めていきたいとの事務局のお考えです。何かありますか。

○赤尾委員

資料3の配布数についてですが、就学前児童と小学生のそれぞれの配布数における全体の割合を教えてください。

●事務局

就学前児童は0歳から5歳児を指しており、清須市における1年間の出生数は700人から750人を推移していますので、1学年では700人から750人程度となっています。今回、特に国からは0歳から5歳が対象となっており、ほとんどの市町村でも、そのように動いていると聞いています。ただし、国から0歳児、1歳児から2歳児と分けるようにとも言われています。ただ、市としては、0歳児は750人のうち400人くらいを対象としたいと考えており、大体、半数以上の方にお尋ねすることとなります。1、2歳児は各300人。0歳児から3歳児合わせて1,000人。3歳児から5歳児合わせて、就学前児童を2,000人で行っていきたいと考えております。そうすると、今の0歳児では半数以上、それ以上は半数より若干少ない人数が調査対象となります。小学生は6年生までを対象としています。そこで1,000人が対象となりますので、割合的には大体全体の4分の1から5分の1、20%の方が対象者となります。

○小川会長

よろしいでしょうか。他よろしいでしょうか。

それでは(2)アンケートの内容について進めていきます。先に1つだけ気がついたことですが、国のモデルが出ていますが、具体的なアンケートについて、母子家庭、父子家庭というものがありますが、特別な扱いはあるのですか。

●事務局

無作為で抽出するので、偶然、母子家庭や父子家庭に当たれば、お答えいただくこととなります。無作為ということで、0歳児から5歳児の就学前児童と小学生とは重複する家庭があると思います。そうしたところは当然、同じ保護者を抽出しないように配慮していきます。

○小川会長

特別扱いはしないということですね。気づいたことがありましたら、お願ひします。難しいアンケートとなっています。内容及び形式でもいいので、保護者が受け取られて、安心して、わかりやすいアンケートでないといけません。

わかりにくいようなところがあれば出していただきたいと思います。

○安藤委員

資料4の間13の子育てに関する情報をどのように入手しますか。という設問ですが、当てはまるもの1つとなっています。子育ての情報というのは、どの情報について知っているのか。保育園についての情報なのか、働くための情報であるのか、それぞれの情報によって1つに決めることができないと思います。この設問はどのような情報について聞いているのでしょうか。

●事務局

問13について、こちらについては、保護者が一番感じている、子育ての不安感や、保育所への入所や幼稚園を考えている方などが、そうした情報をどのように入手しているのか。また、障がいについてなどの支援についてどのように情報を入手されているかをお聞きしたいと考えています。今の質問については、わかりやすいように丁寧に聞いていきたいと思っています。回答を1つとなっているので、複数がいいのか、例えば3つまでがいいのかを検討していきたいと思います。

○小川会長

ありがとうございます。

○塚本委員

アンケート対象が3,000人となっているが、どのくらい返信があるのでしょうか。

●事務局

前回の次世代の時の調査についても、このような子育てに関するアンケートは、割と回収率が良いので50%位はあると思っています。

○小川会長

ほかにありますか。

○原田委員

アンケートを行うことはわかりましたが、どの家庭に行くかはわかりませんね。こういう人にもアンケートを答えてほしい、という人がいたら、増やすことはできるのでしょうか。アンケートに参加したいという方に、お願いをすることはできるのでしょうか。

●事務局

子育てに関心のある方に答えていただくことは嬉しいことですが、無作為で

行ってくるものであります。市としては、アンケートのほかに、グループヒアリングや、ワークショップなどの手法も取り入れていき、子育てに関心のある方からの意見を聞いてまいりたいと考えています。

○原田委員

全部書いた人のみが有効となるのでしょうか。アンケートに書ける箇所と、書けない箇所があるとか、時間がかかるなどあると思いますが。

●事務局

書いてない箇所があっても、書いてある部分は、集計上はカウントされますので、結果には反映されます。

○塚本委員

資料4、5で、書いた後に、封筒に入れて、ポストに入れることとなっておりますが、私が委員で無く一般の保護者なら、このようなアンケートが来ると、この量の多さの上に、わざわざポストまでに行くということになると、難しいと思います。例えば、学校や保育園の先生に渡してもいいのであれば、少しは楽になると思うのですが。

●事務局

基本的には郵送で考えていますが、保護者が学校や保育園に渡すことについては、一度、教育委員会と相談して、そういった便宜、対応ができるようであれば行っていきたいと考えてまいります。

○小川会長

できるだけ、手間が少し省けるようにという意見です。

○原田委員

アンケート項目を読んでいて、とても迷うものがあります。どのように答えればいいのか、また状況が変わることもあります。迷われたりしている人の意見を聞く事が大切だと思います。ほとんどの項目にその他欄があるのですが、資料4の19ページの最後に記載欄があります。このような声を取り入れるために、その他の欄をもう少し大きくするか、大事な項目にはご自由にお書きくださいという欄を設けるなどすれば、無理して項目に当てはめず、意見を書いていただけたらと思います。この様な意見は大切なので、そういった欄を設けてもらえないでしょうか。

●事務局

貴重なご意見だと思しますので、何らかの対応ができればと思います。検討させていただきます。

○原田委員

最初は頑張って記入すると思いますが、後になるとだんだんと適当になってくるのではと思います。

○小川会長

アンケートを行うことについて、広報などに出せればと思います。

○日下部委員

私は、審議会に出ており、アンケートを知っていますが、まったく知らない人は、このアンケートを本当にやってくれるのかと思います。

●事務局

子育てに関するアンケートは、他のアンケートに比べて回収率は高いアンケートであると思っています。前回の調査も半数以上は回収しています。設問数が多いこともありますが、国のイメージも同じくらいの量となっています。おそらく、他市も同じように行っていくと思います。そうした中ではありますが削除できるものについては、検討してまいりたいと思います。

○赤尾委員

設問の回答で、認定こども園がありますが、清須市に認定こども園は、なかったと思います。市外に通っている子どもについてなのでしょう。回答の選択肢として必要なのでしょうか。

●事務局

認定こども園については、県の説明会の中でも、認定こども園がない市や、また、今後も認定こども園をやっていくことを考えていない市から、認定こども園をはずしてもいいかということもありましたが、国が制度として、認定こども園を進めているということなので、国としては認定こども園については、はずさないで欲しいということです。県下の認定こども園の現状についても聞きましたが、現状、保育園を認定こども園に切り替えていくところはないということでした。認定こども園が急激に増えることは考えられないと思います。

○赤尾委員

9月時点でアンケートを行うにあたって、認定こども園に通っている方がいる可能性があるのでしょうか。

●事務局

いらっしゃらないと思います。

○小川会長

意見を頂きましたので、考えてください。

○日下部委員

いつ発送して、どのくらいの期間なのでしょう。

●事務局

資料3の最後に掲載していますが、今日いただいた意見をアンケートに反映して、9月末に発送する予定です。回収は約1か月間で、その後報告書としてまとめてまいります。

○富田委員

私も小学校関係者としてアンケートを見たときに、資料5の10ページの間22ですが、4年生から6年生への問いにもかかわらず、放課後子ども教室と放課後児童クラブは3年生までが対象となっています。例えば、これが6年生までに拡げてほしいという意見があった場合に拡充していくと、児童館、自由来館との区別がなくなってしまう齟齬が出てくると思います。回答で、放課後子ども教室と放課後児童クラブは残しておいてもいいのでしょうか。また、「放課後」はいつを指すのでしょうか。小学校終了後と書いていますが、ほとんどの小学校では、授業後は4年から6年生のほとんど、本校ですと90%以上の子が部活動に入っているので、「部活動」という回答を入れたり、市独自のものを考えてほしいです。

●事務局

貴重なご意見ありがとうございます。4年生から6年生の子どもの多くは部活動を行っているという現状のようですので、項目を追加していくこととしたいと思います。5番、6番の放課後児童クラブ、放課後子ども教室については、必須項目となっており、国は、児童福祉法の改正により、放課後児童クラブを6年生までということがいわれている中での設問で、そういった意味も含めましてニーズがどのくらいあるのかを踏まえて入れさせていただいております。

○小川会長

このあたりで締め切らせていただいてもよろしいでしょうか。もし意見あれば、個々に事務局に言っていただければと思います。網掛けの設問がありますが、

説明を入れておけばいいのではと思います。例えば、資料5の間9、学校で「1、2、3」に飛んでいくと、抜けてしまうことがあると思います。もう一度、危ない部分については、事務局のほうで細かく出してもらえればと思います。私のほうでも目を通したところ、いい調査であるし、いい答えが出たらいいと思いますが、子育ては母親だけではないのに、国は頭に母親と来ています。父親に聞きますというのがあまり見えないように思います。小原先生、せっかくの機会ですので、教えていただけたところ、お気づきになったところがありましたらどうぞ。

○小原委員

ご意見のほうですがなるほど、と思いながら聞かせていただきました。アンケートですが、膨大なので、形式的なもので行けば、回収率50%とありますが、最後に「アンケートの記入漏れがないか確認をしてください」とを必ず入れた方がいいのではと思います。調査では量を中心的にやっていますが、見込み量の不十分、情報の不十分、質の不十分という課題の中で、親の孤立化などについては、アンケートには客観的なものがないと思います。主観的、質的なもの話が少ないと思います。市の考えもあると思いますが、子育て支援からもれてしまう人をどうするかが問題だと思います。孤立化してしまう親の、情報の不十分、質の不十分について、聞いてもいいのではと思います。

●事務局

ただ今のご意見のように孤立化、子育てに対する不安感を持っている人が多いと思います。そのあたりについては、問13などで、もう少し突っ込んだアンケートを行ったほうがいいのかどうかを、検討させていただきたいと思います。

○小原委員

利用していないで終わるのではなく、そこに対して質的な原因を把握できればいいと思います。

○小川会長

ありがとうございました。それでは、今日の議事は終了させていただきます。ご苦労様です。事務局にマイクをお返しします。

●事務局

長時間にわたりましてありがとうございました。本日、いただいた貴重なご意見を踏まえまして、アンケートを修正させていただきます。本日いただいたご意見の他に何かありましたら事務局にお寄せいただければと思います。最終

的には、来月の中旬くらいまでなら修正ができると思います。アンケートについては、9月末の発送の準備を進めていきたいと考えています。本日はお疲れ様でした。ありがとうございました。

#### 4 閉会

上記のとおり会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

平成25年9月24日

委員 日下部 壽子

平成25年9月25日

委員 塚本 まゆ